

謹みより新年純賀詞を申上候

明治四十年一月一日 早稲田大學梅分 後井健治郎

伯耆大隈重信殿閣下

再啓信常様御儀奉月中旬倫敦より若伯林へ
御越え夜泊宿も小生の宅館り不遠安に御定め
と程丸毎日々相往儀致す其同君には至極御健
勝とて清研學と遊居其間此儀聊うと御
煩慮に及り致す存在相會とは互に英獨の所見と
談じ早稲田大學に現在將來と論じ御儀と以て

喜も孤室多と感ずること亦面白く研究罷在れ小生し
動靜は時々早稲田に報に通信致置え間御清
閑し折由一覽と知りやれ心小生し本懐不遺此
台申述べた所 志座九時分郵取折角由
自記と程御様 午一戸乃望之不取敬告

明治三十九年十一月廿六日認

